

令和 **7** 年度

新・中学保健体育 観点別特色一覧

この内容解説資料は、一般社団法人教科書協会の「教科書発行者行動規範」に則って作成しています。

観点	特色：●/具体例：➔
<p>学習指導要領に示す事項を適切に取り上げているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●学習指導要領に示されている方針、目標、内容、内容の取扱いに基づいて、適切に内容を取り上げている。 ●学習指導要領に示された内容と内容の取扱いを基に、学年別で構成している。 ●生徒の発達段階を踏まえ、身近な問題、自他の問題として取り組むことができるように適切に取り上げている。 ●資料は、学習内容に適切に関連し、最新で信頼性のあるものを取り上げている。
<p>学習内容の系統性に対応しているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●系統性を重視して内容を編成し、各章の扉で小学校、中学校、高校の学習内容を見通すことができるようにしている。それにより、小中連携や小中及び中高一貫教育につなげやすくしている。 ➔ p.15,27,43,73,85,107,137,151,169
<p>学習内容の明確化に対応しているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●各章に扉を設け、学習内容の全体像を明示している。 ●各時間の冒頭に「学習の課題」「キーワード」を設け、学習内容を明示している。 ●本文中では、重要な語句を太字で示している。 <div style="float: right;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;"> 学習の課題 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;"> キーワード </div> </div>
<p>主体的・対話的で深い学びの実現に対応しているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●各時間の冒頭に「ウォームアップ」を設け、興味・関心を高め、また学習課題を自ら発見できるようにし、主体的な学びにつながりやすいようにしている。 ●1時間は、「ウォームアップ」→「学習の課題・キーワード」→「エクササイズ」→「学びを生かす」を基本の流れとし、課題の発見から基礎・基本的な知識の習得、課題解決、知識の活用や探究という主体的・対話的で深い学びができるように構成している。 ●「エクササイズ」「学びを生かす」などには、随所に「見方・考え方」を設け、保健体育の見方・考え方を働かせて学習ができるようにしている。 ●巻頭で、教科書の使い方とさまざまな学習方法を示している。また、「課題学習の整理の仕方」を示し、探究的な学習を進められるようにしている。➔ p.8～11 <div style="float: right;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;"> ウォームアップ ➔ 課題の発見 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;"> エクササイズ ➔ 課題の解決 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> 学びを生かす ➔ 学びの活用 </div> </div>
<p>個別最適な学びや協働的な学びが実現できるように配慮されているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●口絵で、保健体育の学びのイメージを持てるようにし、自分自身に関わる課題や、他者や地域・社会などとの関わりを示し、運動や健康について自他の課題を発見・解決していくことを表している。 ●p.12に「よりよく生きる」「よりよく生きる世界をつくる」を設け、自他の課題解決に向けた保健体育の学びが、日々の生活に関連していることを示している（ウェルビーイング）。 ●自身の体験や生活に基づいた課題や、学習したことを自身の生活改善や実践につなげられる課題を随所に設け、個別最適な学びに生かすことができるよう、配慮している。 ●教え合う、学び合う活動や、特にグループでの活動に適した課題には「協働」のマークを設け、協働的に活動する学習活動が生まれるように配慮している。 ➔ p.19,21,29,31,33,35,57,63,75,89,91,93,100,101,109,111,113,123,124,128,143,155,159,163,183 ●各章末に「探究しよう!」を設けて、習熟度や興味・関心に応じて学習・指導できるよう工夫している。 <div style="float: right;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;"> </div> </div>
<p>知識・技能を実践的・体験的に習得できるように工夫しているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●各時間の最後に、「学びを生かす」を設け、その時間で学んだ知識をまとめたり、深めたり、活用したりできるようにしている。 ●ストレス対処や心肺蘇生などの身に付けるべき技能には「技能」のマークを付し、イラストや写真のほか、二次元コードから参照できる動画を活用して、実習を通して学習しやすいようにしている。 ●心肺蘇生法の実習では、手順とチェック項目をまとめて示し、協働的に見合ったり、教え合ったりしながら学べるように、紙面構成を工夫している。➔ p.124～125 ●各章の「章のまとめ」で、「生かそう」「生活への活用」を設けている。 ➔ p.25,41,69,83,105,133,149,167,187 ●口絵の「行って、見て、学ぼう」では、地域との連携を図って学習することを促している。 <div style="float: right;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;"> 技能 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> 実習 </div> </div>
<p>思考力・判断力・表現力等を育成できるように工夫しているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●各時間の「エクササイズ」「学びを生かす」で、正解が一つに定まらないような課題を随所に設け、話し合いを促すことを通じて、思考力・判断力・表現力等を育成できるようにしている。 ●資料や課題文の読み取りなどを随所に設けている。 ●各章の扉で、学びたいことや学んだことなどを、文や絵、図などで記入できるスペースを設けている。
<p>主体的に学習する態度や学びに向かう力、人間性等の評価や育成ができるように工夫しているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●各時間の紙面右下に「とりくメーカー」を設け、学習への主体的な取り組み度合いを自己評価し、メタ認知をできるようにしている。 ●「とりくメーカー」を見返すことで、主体的に学習する態度を振り返ることができるのとともに、自身の興味・関心を確かめ、主体的な学びの循環を促すことができるようにしている。 ●各章の「章のまとめ」で、「生活への活用」を設け、もっと学習したいことを記述できるようにしている。 <div style="float: right;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;"> とりくメーカー </div> </div>

学習指導要領との関連

観点	特色：●／具体例：➡
カリキュラム・マネジメントの実現（運動領域や各教科との関連）が図られているか。	<ul style="list-style-type: none"> ●心と体を一体として捉える観点を重視し、体育分野と保健分野の関連を図っている。 ●随所に「関連」を設け、運動領域および各教科との関連を図って学習を進められるようにしている。➡ p.12,19,30,31,50,74,79,81,90,109,127,170,179,181,183 関連 ●「キーワードで見る保健体育の学習内容」を設け、知識や情報を関連させながら、教科等横断的により探究的に学ぶことができるようにしている。➡ p.190～191
特別の教科 道徳との関連が図られているか。	<ul style="list-style-type: none"> ●学習指導要領に示された道徳の内容について、保健体育の学習全体を通して関連を図ることできるようにしている。この関連については、p.190～191 でわかりやすく示している。
ICTを活用した学習に対応しているか。	<ul style="list-style-type: none"> ●動画やデジタル教材、資料、ワークシート、参考になるリンクなどを、学習内容と適切に関わるものを精選し、二次元コードから参照して利用できるようにしている（全168点）。 ●各時間の右下に二次元コードから参照できる「章デジ」を設け、各章の資料などに容易にアクセスできるようにしている。 ●「章デジ」は、自ら教材を選び、組み合わせながら学習できるように、章ごとのまとまりで表示されるとともに、適切なリンクを探すための時間を省けるように章内のどのページからも同じ場所にリンクされるよう工夫している。 ●有用なウェブサイトなどを随所で紹介し、「リンク」のマークをつけている。 ●学習内容と適切に関連させながら、ICTを活用する場面を例示し、学習の参考となるようにしている。➡ p.9,10,14,22,77,78,82,138,141,143,171 ●各章の扉の「保健体育と情報」で、保健体育と関わりのある情報の例を示している。 <div style="text-align: right;">   </div>
言語活動の充実が図られているか。	<ul style="list-style-type: none"> ●話し合う、表現するなど、コミュニケーションや論理的な思考を促す言語活動を随所に設けている。 ●各章の扉で、学びたいことや学んだことなどを記入するスペースを設けている。 ●二次元コードから参照できる「章デジ」に各時間のワークシートを用意しており、考えや学んだこと、他者の意見などを記述しながら学べるようにしている。
キャリア教育との関連が図られているか。	<ul style="list-style-type: none"> ●口絵で健康、安全・防災、環境、運動・スポーツとさまざまな仕事との関係を示している。 ●各時間の紙面左下に、学習内容に関係のある職業や資格を「JOB」として紹介することで、保健体育の学習を通して常に関連を図れるようにしている。 ●各章の扉の「ひと・もの・こと」で、学習内容と関連する人物や製品・サービスなどを紹介している。また、医療の現場で働く人のインタビューを掲載している。➡ p.103 JOB
生涯スポーツや体力向上に結び付くような配慮がなされているか。	<ul style="list-style-type: none"> ●学習内容、口絵、課題で生涯スポーツについて考えられるようにしている。➡ 体育分野全体、口絵、p.148 ●体力の必要性（災害から身を守る力）（p.80）を取り上げ、体力の必要性や、自然災害時などで運動が制限されるときに工夫などについて学べるようにしている。 ●思春期の発育・発達（p.44～45）、生活習慣病との関連（p.86～91）で、中学生の時期からの運動習慣の必要性に気づくことができるようにしている。 ●体力測定の行い方とその結果を活用した体力の高め方について示している（p.192～194）。また、新体力テストは、二次元コードから参照できる動画で行い方を確かめることができるようにしている。
現代的な課題や社会の変化への対応、内容の選択や取扱い ウェルビーイングについては、どのように取り扱われているか。 多様性の尊重や共生の視点を身に付ける内容については、どのように取り扱われているか。	<ul style="list-style-type: none"> ●p.12で「よりよく生きる」「よりよく生きる世界をつくる」として、中学校生活でのさまざまな体験がウェルビーイングに関わることを取り上げている。 ●章の扉の「ひと・もの・こと」のコラムで、ウェルビーイングを取り上げている。➡ p.151 ●「性とどう向き合うか」では、多様な性の在り方に配慮し、「相手」という言葉を用いて、本文を記述している（p.52～53）。イラストは男女比率、役割などに偏りなく表現している（教科書全体）。 ●包括的性教育の視点を踏まえ、文部科学省『生命（いのち）の安全教育』と関連づけて学習できるようにしている。➡ p.52～53,66 ●「探究しようよ！」で「性の多様性」を設け、LGBT（LGBTQ+）やSOGIに触れるとともに、性についての心の多様性について、正しく学ぶことができるようにしている。➡ p.66 ●ヘルスプロモーション（p.29）、「人々を結び付けるスポーツ」（p.142～143）、「ユニバーサルデザイン」（p.165）、「みんなの健康を守るための活動」や「保健体育の学習の終わりに」などで、健康の大切さや、スポーツの持つ働きなどを認識し、共生社会の実現に向けて考えることができるようにしている。
心の健康やいじめの問題については、どのように取り扱われているか。	<ul style="list-style-type: none"> ●コミュニケーション、欲求不満やストレスへの対処を充実させ、呼吸法などのリラクゼーションの実習や具体的な資料を取り入れている。➡ p.57,60～67 ●いじめについては、さまざまな相談窓口があることを取り上げ、心の健康に関連した重要な健康課題として生命の大切さについて考えられるようにしている。➡ p.57,65
防犯・防災教育については、どのように取り扱われているか。	<ul style="list-style-type: none"> ●生命の安全を重視し、防犯・防災について、危険を予測して回避し、身を守るための行動について学習できるようにしている。➡ p.114～121,130～131 ●自然災害における安全確保の内容を充実させ、過去の大きな災害から学ぶ教訓の形で展開している。また、日頃の備えとともに自然災害発生時には、正確な情報を得ることが重要であることを学べるようにしている。➡ p.116～121,131 ●予測の難しい「地震・火山噴火」と、気象情報からある程度予測が可能な「台風・大雨、大雪、竜巻」の二つに整理して学習できるようにしている。➡ p.118～121 ●保健と体育の連携を図り、災害から身を守るための体力の必要性について取り上げている。➡ p.80

観点		特色：●／具体例：➡	
現代的な課題や社会の変化への対応、内容の選択や取扱い	新しい感染症の予防については、どのように取り扱われているか。	●さまざまな感染症について、正しい知識を身に付け、予防や回復について考えることができるようにしている。本文で人権上の問題にも触れている。 ➡ p.152～155,164	
	がん教育については、どのように取り扱われているか。	●1時間を配当し、豊富な資料を基に、がんについて科学的に理解できるようにしている。また「探究しようよ！」で、「がんの治療」「がんと共に生きる、がん患者と共に生きる」を設け、がんについての学びを深められるようにしている。➡ p.90～91,102～103 ●がん医療の現場で働く医療ソーシャルワーカーをコラムで紹介し、キャリア教育にもつなげられるようにしている。➡ p.103	
	情報活用能力や情報リテラシーについては、どのように取り扱われているか。	●性情報などに関連し、SNSを例に情報モラルについて考えられるようにしている。➡ p.53 ●学習内容と関連させて、インターネットの安全な利用について取り上げている。➡ p.53,130 ●自然災害時には、古い情報やデマなどが含まれる可能性があり、正しい情報を入手する必要があることについて触れている。➡ p.117 ●自然災害の情報や避難の情報、健康・安全に関わる気象情報などは、地域の公的なサービスなどで正しく入手できることを取り上げている。➡ p.119,171	
学習のための創意・工夫	食育については、どのように取り扱われているか。	●「データで見る 運動、食事、休養・睡眠」で食事について取り上げたり (p.3)、食生活と健康の学習 (p.32～33,36～37)、中学校生活と食事 (p.40) によって、興味・関心を持って学習することができるようにしている。 ●アレルギー (p.38) や保健機能食品 (p.166) を取り上げ、身近な事例と関連させて学習できるようにしている。	
	生徒の興味・関心や、学校などの実態に応じた指導ができるような配慮がなされているか。	●各章末に「探究しようよ！」を設け、学習内容に関係が深く、興味を持ちやすい課題を取り上げている。 ●各章末に「探究しようよ！」を設け、生徒の興味・関心や習熟度に応じて学習できるようにし、個別最適な学習にも対応している。	
	学習方法を明確化する工夫がなされているか。	●巻頭 (p.9～11) に「さまざまな学習方法」を設け、学習内容や課題に応じて、工夫しながら学習が進められるように、事例とともにさまざまな学習方法を紹介している。 ●1時間を、「ウォームアップ」→「学習の課題・キーワード」→「エクササイズ」→「学びを生かす」の基本の流れで構成し、見通しを立てて学習しやすいようにしている。	
学習のための創意・工夫	生徒が自ら課題を見つけ、主体的に解決していくための工夫がなされているか。	●各時間の冒頭に「ウォームアップ」を設け、興味・関心を高め、また学習課題を自ら発見できるようにし、主体的な学びにつながりやすいようにしている。 ●1時間の基本構成の繰り返しにより、課題解決的な学習を身に付けられるようにしている。 ●各時間の紙面右下に「とりくメーカー」を設け、学習への取り組み度合いや興味・関心などのメタ認知をできるようにし、主体的な学びの循環 (反復・継続的な学習) を促すように工夫している。	
	学習を広げたり、深めたりするための工夫がなされているか。	●キャラクターの「ウイズ」が、随所で学習内容の確認や追発問、説明を語りかけることで、学習を広げたり、深めたりすることを促している。 ●教科書冒頭の口絵で、興味・関心を高めてから保健体育の学習を始められるようにしており、各時間の「学びを生かす」と章末の「探究しようよ！」で、学習を広げたり、深めたりできるようにしている。	
	特別支援教育につながる配慮がなされているか。	●ユニバーサルデザインでの考えに基づいて配色や色、書体、紙色、表現などを精査し、誰もが見やすくわかりやすくなるように配慮している。 ●グラフでは、色以外で判別できる工夫や、色数を少なくするなど、色覚特性への配慮をしている。 ●書体は、本文や見出し、資料において、ユニバーサルデザイン (UD) フォントを使用し、読みやすさに配慮している。 ●教科書バリアフリー法の趣旨に基づいて、拡大教科書を発行する。 ●学校教育法に沿い、デジタル教科書を発行する。	
配列・分量など	●学習指導要領で示された内容と内容の取扱いを基に、学年別で構成している。 ●1時間見開き2ページを基本構成とし、見通しを持って学習できるように配慮している。 ●生徒の発達段階を踏まえ、身近な問題、自他の問題として取り組むことができるようにしている。 ●資料は、科学的かつ最新で信頼性のある適切なものを取り上げ、見やすく、活用しやすいように工夫している。		
表記・表現・印刷・製本	●文章の表記・表現は、生徒に無理なく理解できる簡潔で平易なものとしている。 ●フォントは、本文や見出し、資料において、ユニバーサルデザイン (UD) フォントを使用し、読みやすさに配慮している。 ●イラストは、多様性に配慮し、登場する人物の男女比率、役割・背景などに偏りなく表現している。 ●サステナビリティに配慮し、環境に配慮して作成された目にやさしい色合いの用紙、植物油インキを使用し、環境負荷の小さいCTP方式で印刷している。 ●製本はあじろ綴じで特殊加工を施しており、3年間の使用に耐えられるように堅牢に仕上げている。		

【教育基本法との関連】

※表中の [] は該当箇所、ページの例。

教育基本法第2条		特に意を用いた点や特色
第1号	幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと。	<ul style="list-style-type: none"> ●保健体育科の目標、学習内容そのものであり、前述の観点別特色一覧で示したように教科書全体を編集している。[教科書全体] ●運動、食事、休養・睡眠に関わるデータを取り上げている。[p.2～3] ●日本各地のスポーツ・健康・安全に関する施設や史跡を取り上げている。[p.6～7] ●各章の扉で学習内容に関連した「ひと・もの・こと」を紹介している。 [p.15,27,43,73,85,107,137,151,169] ●保健体育の学習と関わるさまざまな体験を通して、保健体育の学びがウェルビーイングの向上につながることを取り上げ、健やかな身体を養うことができるようにしている。[p.12]
第2号	個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと。	<ul style="list-style-type: none"> ●学習内容に関連した職業や資格を各所で紹介し、職業と生活との関係を身近にするとともに、勤労の尊さに気づくようにしている。[教科書全体] ●運動、食事、休養・睡眠に関するデータを取り上げ、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うことができるようにしている。[p.2～3] ●「よりよく生きる」「よりよく生きる世界をつくる」で、保健体育の学習がウェルビーイングにつながることを示している。[p.12] ●スポーツの多様性やスポーツと人々を結び付ける働きを学習することで、個人や他者を尊重する態度を養えるようにしている。[p.16～25,142～143] ●健康とは何か、生活習慣と健康との関係について学ぶことを通して、個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うことができるようにしている。[p.28～41] ●心の健康では、個人の価値の尊重に関わるいじめの問題を鑑み、社会性の発達、自己形成、コミュニケーションに重点を置いている。[p.54～67] ●保健・医療機関や健康を守るための活動の具体例を挙げ、公的に行われる職業の重要性を学べるようにしている。[p.160～161,166]
第3号	正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと。	<ul style="list-style-type: none"> ●健康や生涯にわたるスポーツライフの実現のためには、みんなで助け合い、支え合うことが必要であることを基本的な編集方針として記述、構成している。[教科書全体] ●健康、環境、安全・防災、運動・スポーツについて、日常生活の中で関わり合って生きる例を取り上げ、自他の敬愛と協力を重んずる態度に気づくようにしている。[p.4～5] ●スポーツの多様性について学ぶことを通して、正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずることができるようにしている。[p.16～25] ●心身の発達と心の健康の学習を通して、かけがえのない自分に気づけるようにするとともに、他者を尊重する態度を養えるようにしている。[p.42～67] ●スポーツに求められる社会性について学ぶことを通して、ルールやマナーを守ることや他者を尊重することなどの重要性に気づくようにしている。[p.75] ●生活習慣病の予防、喫煙・飲酒・薬物乱用と健康について学ぶことを通して、正義と責任、自他の敬愛と協力を重んずることができるようにしている。[p.86～105] ●地域における防犯、防災の取り組みを「自助・共助・公助」の視点から取り上げている。[p.114～121] ●感染症の予防、健康を守る社会の取り組み、保健・医療機関の利用や医薬品の使用について学ぶことを通して、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うことができるようにしている。[p.152～167]
第4号	生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うこと。	<ul style="list-style-type: none"> ●健康、環境、安全・防災、運動・スポーツについて、日常生活の中で関わり合って生きる例を取り上げ、自他の敬愛と協力を重んずる態度や生命尊重、環境の保全の大切さにも気づくようにしている。[p.4～5] ●心身の発達と心の健康の学習を通して、かけがえのない自分に気づけるようにするとともに、生命を尊び、他者を尊重する態度を養えるようにしている。[p.42～67] ●野外スポーツの安全な行い方を学ぶ中で、自然を大切にすることを養えるようにしている。[p.79] ●傷害の防止について学ぶことを通して、生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うことができるようにしている。[p.108～133] ●健康と環境の学習を通して、環境を保全することの大切さを記述している。[p.168～185] ●共に健康に生きる社会、人類と地球の未来について考える課題を通して、SDGsや環境を保全することの大切さに気づくようにしている。[p.188～189]
第5号	伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。	<ul style="list-style-type: none"> ●スポーツの魅力や価値を通して、他国を尊重し国際平和に寄与する態度を養うことができるようにしている。 [前見返し～p.1] ●地震による被害に基づいた教訓として伝えられてきた「津波てんでんこ」を取り上げている。[p.119] ●医学の分野で世界的な業績を上げた本庶佑氏を取り上げている。[p.102] ●嘉納治五郎氏の発言を基に、日本の伝統的な心の習慣に気づくようにしている。[p.137] ●日本とオリンピック・パラリンピックについての豊富な資料で、スポーツを通じた国際平和への貢献を学ぶとともに、国際的なスポーツ大会の遺産（レガシー）などを通じて、我が国に誇りを持つことができるように工夫している。[p.144～148] ●公害から学んだ教訓を世界の持続的な発展のために人類全体で共有する必要性に触れている。 [p.182～183,185,188～189] ●共に健康に生きる社会、人類と地球の未来について考える課題を通して、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことができるようにしている。[p.188～189]

※この資料は、弊社ウェブサイト「学研 学校教育ネット」からダウンロードすることができます。